

●不動の滝

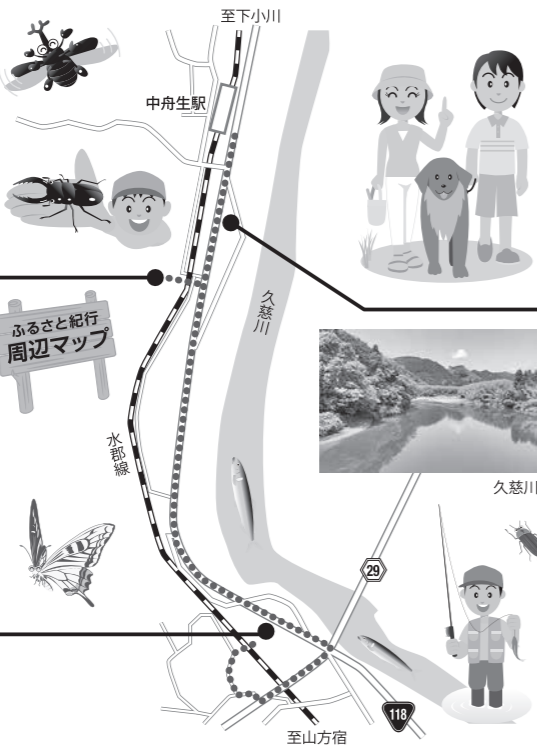


滝の名称になっているように、滝の形に不動明王の尊影が感じられると、古くから地域の人々の信仰を集めてきた。岩壁に小祠を設け、五穀豊稔、家内安全のご利益を願う。近くには十二所神社もある。



●御城展望台

久慈川を一望できる展望台。使用料は大人100円、小中学生50円。時間は9:00～17:00(10～3月は～16:00)。月曜日休館。



コースは季節を問わずに楽しむことができます。新型コロナウイルス感染症拡大等の状況を考慮しながら、散策をお楽しみください。

●紙のさと・西ノ内紙



350年の歴史を持つ西ノ内紙。上質な「那須楮(こうぞ)」と奥久慈の清流が漉き出す和紙作品が展示・販売されている。



紙のさと・西ノ内紙には資料館もあり、「すき絵体験」もできる。料金は1,300円(税込)で所要時間は2時間。要予約。

Vol.111

駅からのふるさと紀行 JR水郡線

なか ぶ にゅう

中舟生駅

やま が た じ ゅ く し も お が わ

山方宿 下小川

●次回は7月25日
掲載予定です。

※イラストはイメージです。



全線開通した水郡線

2019年の台風19号の影響で運転を見合わせていた水郡線の袋田～常陸大子駅間。新しい橋梁(写真)が完成し、2021年3月27日に全線運転再開となった。



働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
https://www.ibaraki-isuzu.co.jp



広告

●奥久慈の入口にある中舟生駅



●ホームは1面1線



●国道118号にある駅への入口案内

奥久慈への玄関口は西ノ内紙の原料・楮の産地。JR水郡線中舟生駅は、昭和31年11月19日に開業した。単式ホームの1面1線。駅舎はなく、開業以来無人駅となっている。国道118号に駅への入口はあるが、駅へのアプローチは狭く、駅前広場などはない。駅名は山方町(現常陸大宮市)が明治22年に吸収合併した舟生村に由来する。線路は南北に伸び、国道118号と久慈川が並走する。駅周辺の久慈川は溪流から本流になり、ゆったりと流れはじめるところ。舟生地区は水戸藩名産の西ノ内紙の原料となる良質な楮(こうぞ)が採れたところ。かつて久慈川の川原には、洗った楮を干したり、白く晒す光景が見られた。駅の近くには西ノ内紙ノ歴史を今に語り継ぐ「紙のさと・西ノ内紙」がある。

●散策コース●

久慈川の清流と美しい山々に挟まれた中舟生駅から、まずは不動の滝を目指す。駅から国道118号を南下すると、右側に入りの看板が見える。水郡線を越えると滝までは遊歩道になっている。滝の高さは約10m。滝沢川の溪流が岸壁を一気に落下し、春は桜、夏は青葉、秋は紅葉、冬は雪と相俟って、四季折々の美しさを見せる。近くには十二所神社もあり、遊歩道でつながっているので、そちらも訪ねたい。

国道118号を南下すると御城(みじょう)展望台がある。昭和

62年、佐竹氏の重臣・山形能登守の居城跡に展望台が築かれた。石垣の上に立つ天守から臨む久慈川は美しく、館内には山方氏の資料や地域の特産品なども展示されている。

最後は中舟生駅の近くにある「紙のさと・西ノ内紙」へ。「西ノ内紙」は徳川光圀公が命名したと言われる。保存性に優れた紙は、水戸藩の特産物として江戸商人の大福帳などとして広く普及した。光圀公が編纂した「大日本史」にも使われており、昭和46年には県の、52年には文化庁の無形文化財に指定された。店内には和紙の柔らかな風合い、素材感を取り入れた室内装飾品や雑貨などが販売されているので、じっくり眺めてみよう。